

【 大会特別規定 】

令和8年1月31日
岩手県KB野球連盟

- 1 使用できるバットについて
軟式用、硬式用、ローバウンドボール用の金属又は木製・竹製バットを使用する。複合バットやカーボン素材(炭素繊維強化プラスチック)などの高性能高反発バットは使用できない。
- 2 イニングおよび試合時間の制限について
 - (1) 全試合7イニング(又は100分)を超えて新しいイニングに入らない。
 - (2) 得点差によるコールドゲームを適用する。4回(3回1/2含む)以降10点差、5回(4回1/2含む)以降7点差とする。
 - (3) 暗黒、降雨またはWGBT35℃以上となり試合を中止した場合によるコールドゲームは、試合成立を5回(4回1/2含む)とする。
 - (4) 上記(3)で試合成立前の当該試合の勝敗は抽選によって決する。
 - (5) 3・4日目に行われる決勝ステージでは、7イニングを終えた時点または100分を経過した時点で同点の場合、次のイニングから0死満塁で特別延長戦を行う。特別延長戦の打順は監督が指定する(指定された打者の前の3人が順次ランナーとなる。)。以後継続打順で行う。
 - (6) 暗黒、降雨などで試合が途中で中止になった場合は、5回以前に中止になった場合はサスペンデットゲーム(一時停止試合)とし、翌日の第1試合に先だって特別続行試合を行う。5回を過ぎている場合は試合成立となる。同点の場合はサスペンデットゲームとなる。
 - (7) 天候等(降雨・雷など)によって、試合の進行を中断することがある。
- 3 タイムの回数制限について
 - (1) 守備側が選手2人以上集まるタイムは1試合に3回までとする。延長戦は1イニングに1回とする。
 - (2) 攻撃側のタイムは1試合に3回までとする。延長戦は1イニングに1回とする。
 - (3) 監督が投手のところへ行く回数は1試合で3回までとする。延長戦は1イニングに1回とする。
- 4 臨時代走について
 - (1) 塁上の走者が負傷した場合で、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が判断したときは、臨時代走の処置を行うことができる。
 - (2) 打者が頭部へヒット・バイ・ピッチを受けたときには、その程度を問わず臨時代走の処置を行う。
 - (3) 臨時代走者は、投手を除く打順前位の者とする。
- 5 投手の交代について
公認野球規則5.10(d)【原注】(投手は1イニングに投手以外の守備に2度以上つくことは許されない。)は適用しない。
- 6 監督・コーチについて
 - (1) ユニフォームを着用する。
 - (2) コーチボックスに立つ場合はヘルメットを着用する。
 - (3) 監督が不在(緊急の用事等)の時は、事前に大会本部と対戦チームの了承を得た上で、コーチが代行監督を務めることを認める。

7 ユニフォームについて

チームの運営支援企業等の広告等を付けることを認める。(野球規則 3.03(a)(c)(d)(j)は適用しない。)ただし、背番号に関する規定は大会要項 16 競技方法 (6) による。

8 公認野球規則 5.11 の指名打者ルールについて

指名打者を使うことができる。規則適用上の例を下に示す。

(1) 投手以外に指名打者を使うことはできない。5.11(a)(1)

例：打撃が良い投手、打撃が弱い遊撃手がいた場合。投手を打順に入れて遊撃手の代わりに指名打者を打順に入れることはできない。

(2) 試合開始の時点で指名打者を指名しない場合は、試合の途中から指名打者を使うことはできない。5.11(a)(3)

(3) 指名打者の役割が消滅する場合。(その後、その試合では指名打者を使えない。)

・投手が他の守備位置につく。5.11(a)(8)

・投手が指名打者の代打・代走をおこなう。5.11(a)(10)

・指名打者が守備位置につく。5.11(a)(12)

・他の守備位置の選手が投手になる。5.11(a)(14)

(4) いわゆる“大谷ルール”は採用しない。5.11(b)

9 ストライクゾーンについて

ストライクは打者が打てるボール(外角と高めを広めに)を「ストライク」と判定する。

10 規則適用上で疑義が生じた場合について

規則適用上の疑義に対しては、当事者と監督が直接質問することができる。